



## FOREX WEEKLY REPORT

2019年2月19日

## I. 先週の動き

先週のドル円チャート



		2/11(月)	2/12(火)	2/13(水)	2/14(木)	2/15(金)	週間
ドル円	高値	110.46	110.65	111.06	111.13	110.64	111.13
	安値	109.72	110.35	110.43	110.41	110.25	109.72
ユーロ円	高値	124.86	125.27	125.53	125.44	124.86	125.53
	安値	124.30	124.47	125.01	124.75	124.24	124.24
ユーロドル	高値	1.1330	1.1340	1.1342	1.1310	1.1306	1.1342
	安値	1.1267	1.1258	1.1260	1.1248	1.1234	1.1234

## ◆先週の動き

【2/11】週明け11日のドル円は、早朝シドニー時間に付けた109.72がこの日の安値。東京市場が祝日で休場となる中、春節明けで1週間振りの開場となった中国株式が堅調に推移したことで円売りとなり、ドル円は欧州時間入りにかけて110.28まで上昇した。NY時間入り後は、米10年債利回りが上昇したことでドル買いが進行し、ドル円は年初来高値となる110.46まで上伸。110.38で引けた。

ユーロドルは早朝シドニー時間に1.1330の高値を付けた後、アジア時間帯を1.1318-30のレンジで推移。海外勢参入後、米10年債利回りの上昇を背景にドル買いとなる中、ユーロドルは1.1267の安値まで下落した。引け値は1.1274となった。先週末、欧州委員会がユーロ圏の2019年成長見通しを11月発表時から大幅下方修正したことをきっかけにユーロ売りが継続しており、ユーロドルは上値が重い状況が継続した。

【2/12】連休明け東京時間のドル円は、シェルビー米上院歳出委員長が「米政府機関閉鎖回避に向け原則合意した」と発言し、日経平均株価が大幅高となったことで為替市場は円売りに傾斜。ドル円は110.35の安値から年初来高値となる110.65まで上昇した。欧州時間は110.45-65レベルで方向感無く推移した。NY時間は、WTI原油先物が上昇する中、対資源国通貨でドル売りとなり、ドル円はこの日の安値となる110.35まで再び下落。その後、トランプ米大統領が米政府機関閉鎖に関し「民主・共和両党と取り組む意欲がある」、「政府機関の閉鎖はないだろう」と発言したことや、米中通商問題に関し「3月1日の対中関税引き上げ期限、遅れても構わない」と対中関税引き上げ期限延期を否定しない考えを示したことで、米株式市場は大幅高に。為替市場はリスクオンの円売り・ドル売りとなり、ドル円は110.43-55のレンジで膠着し、110.48で引けた。

東京時間のユーロドルは1.1272-85のタイトレンジで推移。欧州勢参入後に1.1258の安値まで下落した後、原油高株高のリスクオン地合いとなる中ドル売りとなり、ユーロドルはほぼ一方に上昇。NY時間には1.1340の高値を付け、1.1326で引けた。

【2/13】ドル円は、早朝に110.43の安値を付けた後、堅調な日経平均株価を背景に円売りが進行したことで、欧州時間入りにかけて110.70超えまで上伸した。欧州時間は110.59-77のタイトレンジで推移。NY時間は、米1月消費者物価指数(前年比:実績+1.6%/予想+1.5%)が市場予想を上回ったことで米10年債利回りが上昇しドル買いに傾斜した。その他、15日に期限を迎える米つなぎ予算について、米CNNは「トランプ米大統領、国境警備予算案に署名の意向、政府閉鎖回避」と報じた。トランプ米大統領は「満足していない」と発言したものの、米政府機関の再開懸念が後退した。また、米中通商問題について、トランプ米大統領は「中国との通商協議は極めて順調」と発言したことで、為替市場は全般的にドル買い・円売りとなり、ドル円は年初来高値となる111.06まで上昇した。引けは111.00となった。

ユーロドルは東京時間を1.1327-42(高値)のタイトレンジで推移。その後、欧州時間に発表された欧州圏12月鉱工業生産(前月比:実績▲0.9%/予想▲0.4%)が市場予想を下回ったことや、スペイン議会にて2019年の予算案が否決され、下院総選挙が前倒しで実施されるとの思惑から政局不安が強まったことで、NY時間終盤にかけてユーロ売りが強まった。ユーロドルは海外時間を通じてほぼ一方に下落し、1.1260の安値をつけ、安値引けとなった。



【2/14】東京時間のドル円は110.90割れまで下落した後、「米国は対中関税期限の60日間延長を検討」との報道を受け、年初来高値となる111.13まで上昇した。その後、NY時間にかけては110.96-111.12のタイトレンジで推移した。NY時間に発表された、米12月小売売上高速報(前月比:実績▲1.2%/予想0.1%)、米1月生産者物価指数(前月比:実績▲0.1%/予想0.1%)、米新規失業保険申請件数(実績23.9万件/予想22.5万件)はいずれも予想対比弱い結果に。特に、およそ9年振りの低水準となった小売売上高速報が材料視され為替市場はドル売りに傾斜し、ドル円は110.50まで下落した。その後、110.82まで買い戻されたが、プレイナードFRB理事の「バランスシート縮小、年内の終了を支持」との発言や、「米中通商会議、改革要求めぐり依然隔たり大きい」とのヘッドライン等を受け再びドル売り地合いに。更に、引け際にはサンダース・ホワイトハウス報道官が「トランプ米大統領は予算案に署名すると同時に、メキシコ国境の壁建設費用を確保するために国家非常事態を宣言する」と発言し、リスクセンチメントの悪化から円買いが強まったことで、ドル円は110.41の安値まで下落し、安値引けとなった。

ユーロドルは早朝に1.1248の安値を付けた後、東京時間はじり高となり1.1280超えまで上伸した。欧州勢参入後、独第4四半期GDP・速報値(実績±0.0%/予想+0.1%)が弱い結果となったことで1.1250まで下落。その後はNY時間にかけて1.1260-80レベルで方向感なく推移した。NY時間は米経済指標の弱い結果を受けドル売りとなり、ユーロドルは1.1310の高値まで上昇した。その後、ドルが買い戻される場面では1.1265まで下落したが、米中通商問題や米国予算問題に対し悲観的なヘッドラインを受け再びドル売りとなる中、1.1300超えまで上伸。引け値は1.1296となった。

【2/15】先週金曜日の東京時間は、前日NY時間に発表された米小売売上高がおよそ9年振りの低水準となったことや、米中通商問題、米国予算問題等に対し悲観的な報道がなされたことで、日経平均株価が寄り付きから軟調推移となる等リスクオフ地合いが継続。為替市場では円買いが強まったことで、ドル円は110.27まで下落した。欧州勢参入後、110.47まで買い戻された後、米10年債利回りが低下したことで110.25の安値まで下落。その後は欧州圏株式が全般的に堅調な推移となる中、円売り基調となり、ドル円はNY時間にかけて110.50超えまで上伸した。NY時間は米2月NY連銀製造業景気指数(実績8.8/予想7.0)が予想を上回ったことで、ドル円は110.64の高値まで上昇。その後に発表された米1月鉱工業生産(実績▲0.6%/予想+0.1%)、米2月ミシガン大学消費者マインド・速報値(実績95.5/予想93.7)は強弱まちまちとなり、為替市場への影響は限定的だった。引けにかけては、トランプ米大統領が米通商協議について「合意にかなり近づいた」「交渉中は関税を現行水準で維持するが、中国との貿易交渉について3/1の期限延長の可能性はある」とポジティブな発言を行った。同発言を受け米株式は大幅高で推移し、為替市場では円売りが優勢となったが、米国3連休を前に調整のドル売りも強まったことでドル円は110.50近辺で膠着し、110.47で引けた。

ユーロドルは東京時間を1.1283-97のレンジで推移した。欧州時間に、クーレECB理事が「ユーロ圏の景気減速が予想以上に強く広域に及んでいる」と発言。また、新たなTLTRO(ECBIによる長期資金供給オペ)についてECB内で導入の議論が再開していると示唆した。これらを受け、為替市場ではユーロ売り優勢となり、ユーロドルは1.1234の安値まで下落した。NY時間はドルが全般的に下落する中でユーロが買い戻され、ユーロドルは1.1306の高値まで上昇し、1.1293で引けた。

## II. 今週の予想

通貨	今週予想		コメント
	安値	高値	
ドル/円	109.50	111.30	ややベア
ユーロ/円	124.00	125.50	ベア
ユーロ/ドル	1.1200	1.1350	ベア

### ◆今週の予想

ドル円は年初フラッシュクラッシュの下落幅を取り戻して以降、今月に入っても108円台後半～111円台前半で堅調な推移を続けているが、今週は上値の重い展開を予想する。

ドル円だけを見れば上昇基調継続と見えなくもないが、クロス円に目を移せば、英ポンド/円は1月下旬に、ユーロ/円と豪ドル/円は2月上旬につけた高値をもって、一旦上昇を終えており、年初来の円売りは一服したとみている。目先の為替材料として注目されている、米国の政府閉鎖は一旦回避されたものの、非常事態宣言を受けた下院民主党との対立激化が懸念されることも、ドル買い(円売り)を慎重にさせている。加えて、本邦では3月にかけて本格化するとみられる本邦勢の円転需要がそろそろ高まる頃合いになる。好調だった北米の利益還流に加えて、大企業/製造業の想定為替レートが109.26(日銀短観)であることも考えると、本邦企業の円買いが当面ドル円の頭を抑える要因になり、ドル円の需給環境に暫しの変調が見られるのではないだろうか。

これらを考えると、まずは前週高値(111.13)が意識され、それを超えても200日移動平均線(2/18時点で111.31)が次のハードルになりそうだが、その場合は110円割れでの滞空時間も想定すべきであろう。

最後に、今週のイベントとしては東京時間2/21早朝のFOMC議事要旨(1/29-30分)発表に注目しておきたい。政策金利の据置きやバランスシートの縮小について柔軟に対応するといったハト派な声明を出した回だけに、議論された内容もしっかり見ておきたい。



## Ⅲ. 経済指標カレンダー

日付	時間	国	月	経済指標、要人発言
2月18日	米株式・債券市場休場(プレジデントデー)			
	8:50	日	12月	17機械受注(前月比)
2月19日	9:30	豪		2月RBA議事録
	18:30	英	1月	失業率(社会保障受給)
	18:30	英	12月	ILO失業率(3ヵ月)
	19:00	独	2月	ZEW調査(現状指数/期待指数)
	19:15	欧		ギントスECB副総裁、発言
	22:50	米		メスター・クリーブランド連銀総裁、発言
	0:00	欧		ブラートECB専務理事、発言
2月20日	EU大使、英離脱巡り協議(ブリュッセル)			
	8:30	豪	1月	ウエストハック 景気先行指数(前月比)
	21:00	米		MBA住宅ローン申請指数
	0:00	欧	2月 速報値	消費者信頼感
	4:00	米		FOMC議事要旨(1月29~30日開催分)
2月21日	9:30	豪	1月	失業率
	16:00	独	1月 確報値	消費者物価指数(前年比)
	17:00	欧		ブラートECB専務理事、発言
	17:30	独	2月 速報値	マークイット BMEドイツ製造業/サービス業PMI
	18:00	欧	2月 速報値	マークイット ユーロ圏製造業/コンポジットPMI
	21:50	米		ボスティック・アトランタ連銀総裁、発言
	22:30	欧		ブラートECB専務理事、発言
	22:30	米	2月	フィラデルフィア連銀景況
	22:30	米		新規失業保険申請件数
	22:30	米	12月 速報値	耐久財受注(前月比)
	23:45	米	2月 速報値	マークイット米国製造業PMI
	0:00	米	1月	景気先行指数
	0:00	米	1月	中古住宅販売件数
	2:35	加		ボロスBOC総裁、発言
	7:30	豪		ロウRBA総裁、発言
2月22日	8:30	日	1月	全国消費者物価指数(前年比)
	16:00	独	第4四半期 確報値	GDP(季調済/前期比)
	18:00	独	2月	IFO企業景況感指数
	19:00	欧	1月 確報値	消費者物価指数(前年比)
	22:30	加	12月	小売売上高(前月比)
	0:15	米		ウィリアムズNY連銀総裁、発言
	0:30	欧		ドラギECB総裁、発言
	2:00	米		クラリダFRB副議長、発言
	2:30	米		ポッターNY連銀執行副総裁、発言
	3:30	米		ブラード・セントルイス連銀総裁、発言
	3:30	米		ハーカー・フィラデルフィア連銀総裁、発言
	3:30	米		クオールズFRB副議長、発言
	7:30	米		ウィリアムズNY連銀総裁、発言

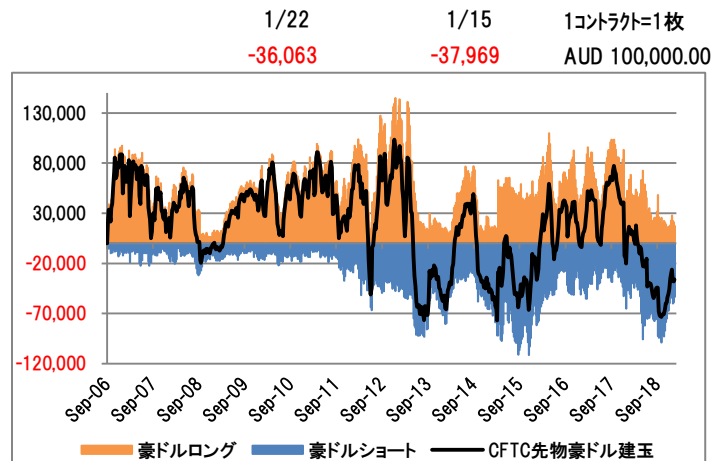
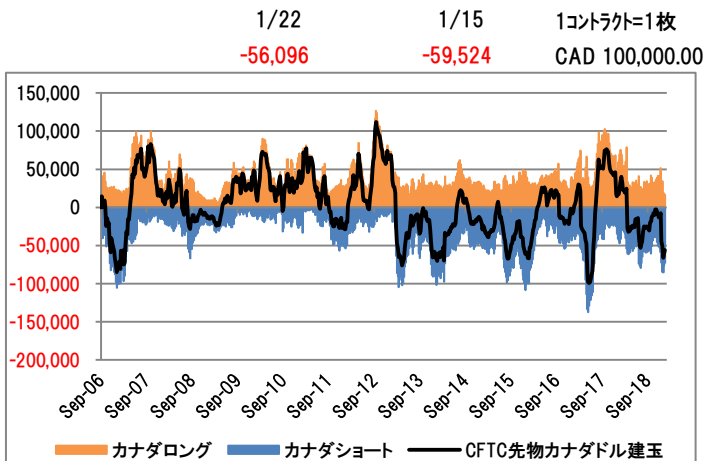
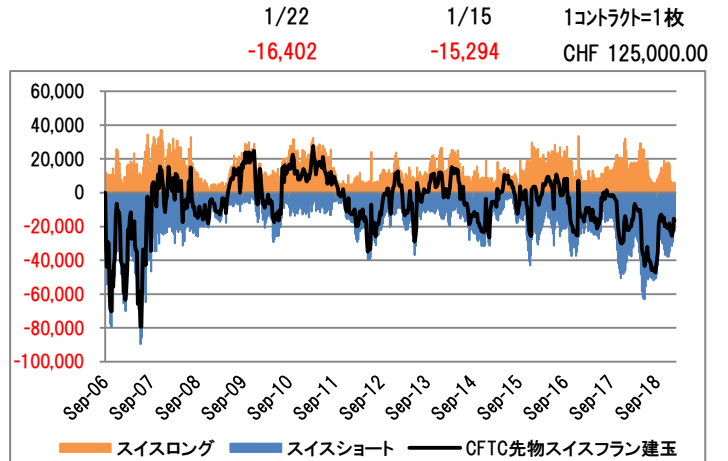
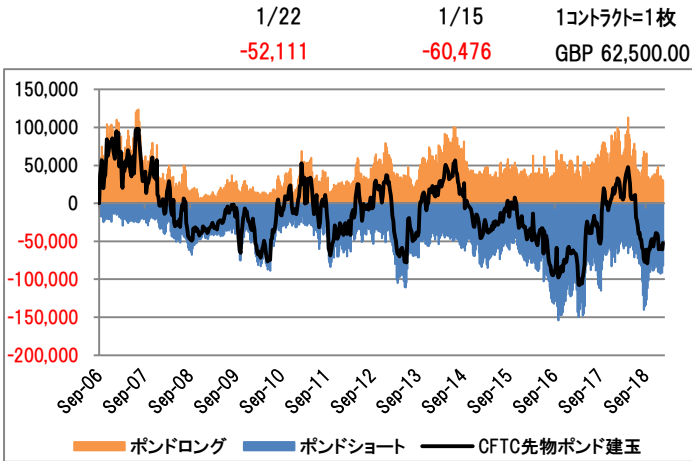
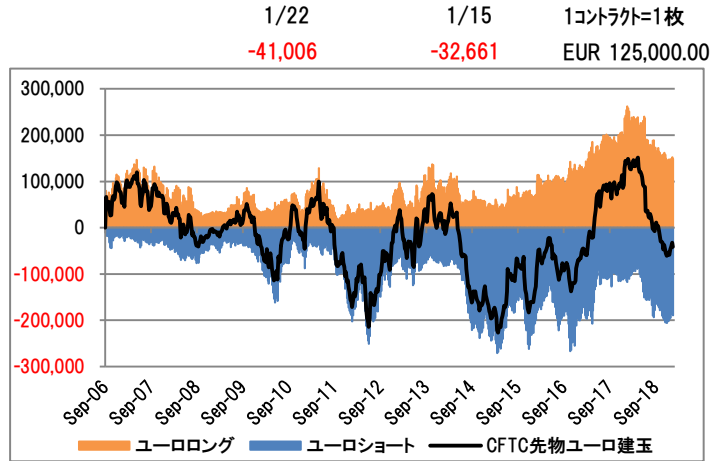
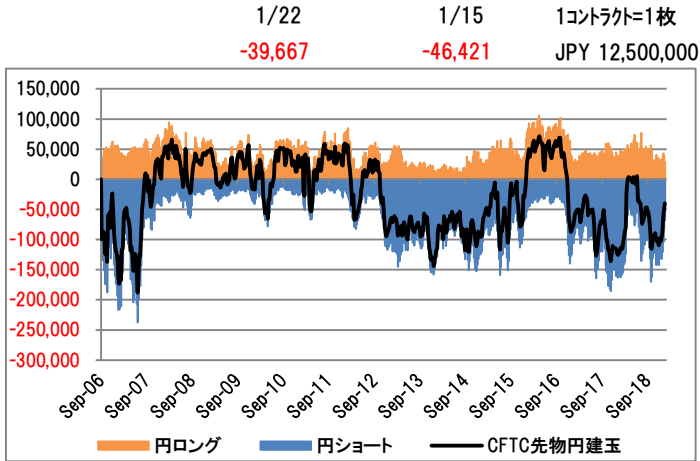


## V. IMM投機勘定

★ IMM投機勘定とは？IMM(シカゴマーカンタイル取引所内にある国際通貨取引部門)投機筋のポジション建て玉。

★「買い越し」(ネットロング)ポジションが過剰になると相場が天井を示し下落する可能性が高いといわれています。

★「売り越し」(ネットショート)ポジションが過剰になると相場が底を示し上昇する可能性が高いといわれています。



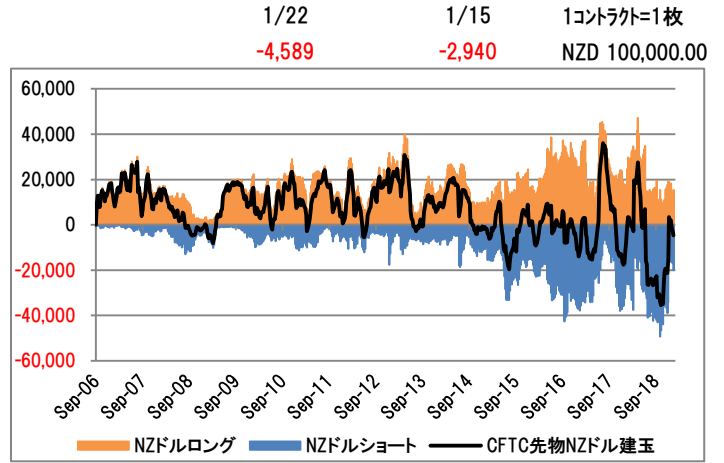
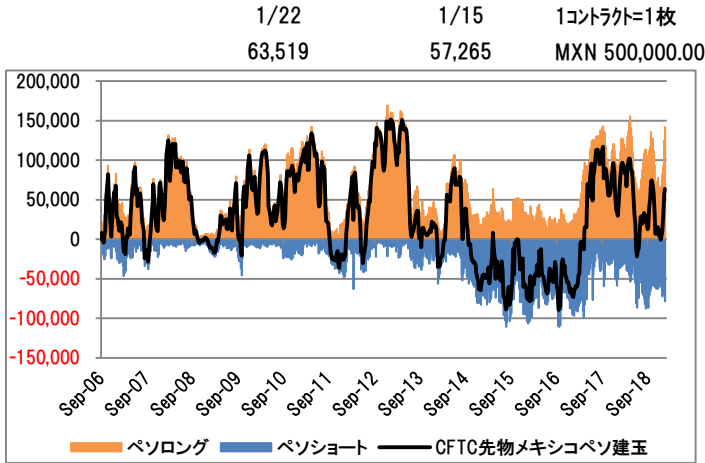


## VI. IMM投機勘定

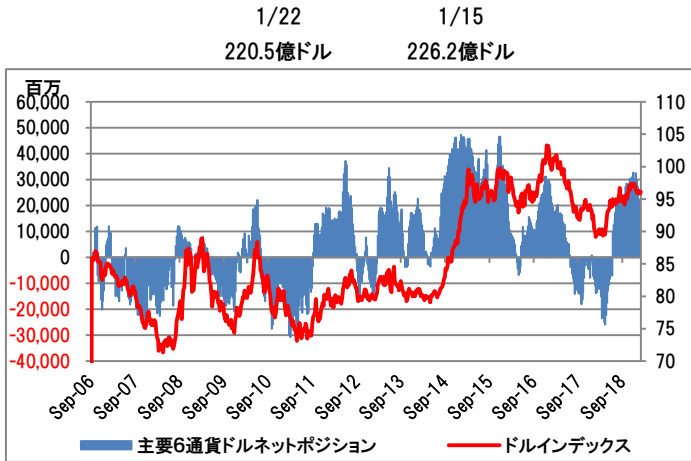
★ IMM投機勘定とは？IMM(シカゴマーカンタイル取引所内にある国際通貨取引部門)投機筋のポジション建て玉。

★「買い越し」(ネットロング)ポジションが過剰になると相場が天井を示し下落する可能性が高いといわれています。

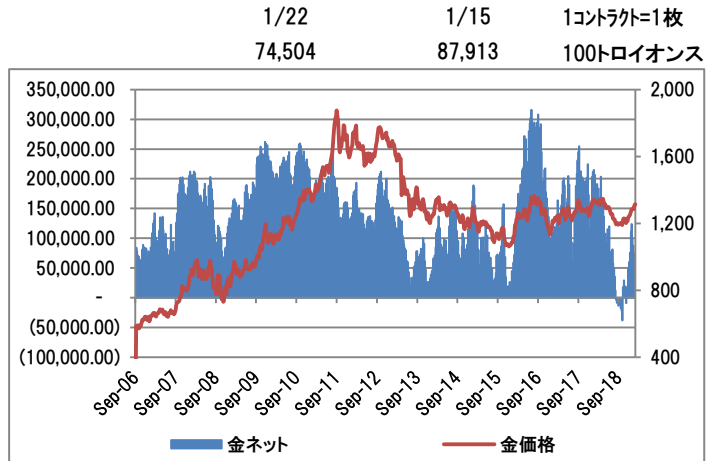
★「売り越し」(ネットショート)ポジションが過剰になると相場が底を示し上昇する可能性が高いといわれています。



★対8通貨のドルネットポジションとドルインデックス



★COMEX金投機筋ネットポジションと金価格の推移



- ・この資料の無断での複写、転写、転載、改竄または配布は、禁止されています。
- ・この資料は、情報の提供を唯一の目的としたもので、特定の金融商品取引の投資勧誘・奨励を目的としたものではありません。
- ・金融商品取引を検討される場合には、別途当該金融商品の資料を良くお読みいただき、充分にご理解されたうえで、ご自身の判断と責任においてお取引をなさるようお願いいたします。
- ・金融商品によっては所定の手数料等をご負担いただく場合があります。また金融商品によっては証拠金や担保をご提供いただく場合があります。なお、具体的な金融商品が定まっていないため、現時点では手数料・証拠金・担保等の額または計算方法およびその比率をお示しすることはできません。
- ・金融商品によっては、金利水準、為替相場、株式相場等の金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により、お客様に損失が生じることがあり、またこの損失がお客様からご提供いただいた証拠金・担保(もしあれば)の額を上回るおそれがあります。
- ・商号等／株式会社新生銀行 登録金融機関／関東財務局長(登金)第10号  
加入協会／日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会